

講義名	経済情報特別演習 /情報処理特別研究			授業形態	
担当教員	平越 裕之 / 関 陽		開講期・曜日・時限	前期 月曜日 1 時限	
	単位数	2	履修開始年次	3 年生	ナンバリング・コード ESM342

主題と概要

基本情報技術者試験内容の学習により、情報処理への理解を深め、応用力を身に付けることを目的とする。「情報処理特別研究」では、コンピュータシステム（ハードウェア、ソフトウェア、データベース、ネットワーク）及び情報セキュリティに関して取り扱う。

到達目標

基本的な情報技術の知識を持ち、それを次のステップの学習につなげられるようになる。基本的な情報技術には、日頃から興味・関心を持っておいください。

提出課題

講義中何回か小テストを課す予定

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

知識の確認や午後問題を使った応用演習は、授業中に解答に関して解説を行う。一部持ち帰る応用演習については、次回の授業で解説する。

評価の基準

出席回数が足りない場合には単位取得は出来ないの注意すること。
授業への積極的な参加等の受講態度20%、小テストや課題20%、定期試験60%

履修にあたっての注意・助言他

授業中、トピックについて自分で調べてもらい、その場で発表してもらおうことがあります。インターネットに接続できる機器（Smart iPhoneやタブレットなど）があれば持って来ておいください。内容についてある程度の興味・知識が必要です。また上述のように、自分で調べたり考えたりすることが非常に大切です。

教科書	・令和05-06年 基本情報技術者の新よくなる教科書。	イエローテールコンピュータ	技術評論社	1480	4297130602
-----	-----------------------------	---------------	-------	------	------------

参考図書

その他

プリント配布の予定

授業計画

- 担当：平越
1. ネットワーク(1)
 2. データ通信・伝送制御
 3. ネットワーク(2)
 4. ネットワーク(3)
 5. インターネット
 6. ネットワーク(3)
 7. インターネット
 8. ネットワーク(3)
 9. インターネット
 10. ネットワーク(3)
 11. インターネット
 12. ネットワーク(3)
 13. インターネット
 14. ネットワーク(3)
 15. インターネット

- 担当：関
1. ハードウェア(1)
 2. 数値・文字・画像・音声の表現、論理演算と論理回路
 3. ハードウェア(2)
 4. 処理装置、記憶装置、入出力装置
 5. ハードウェア(3)
 6. 命令実行方式、アドレス方式、機械語
 7. ハードウェア(4)
 8. OS、タスク管理、メモリ管理
 9. ハードウェア(5)
 10. ミドルウェア、応用ソフトウェア、言語処理ツール
 11. データベース(1)
 12. データモデル、関係演算、正規化
 13. データベース(2)
 14. データベース言語 (SQL言語)
 15. データベース(3)
 16. データベース管理システム、トランザクション処理
 17. その他

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

本講義時間だけでは学習は完結しません。興味を持ち、日ごろから調べたり学習したりする姿勢を望みます。また、学習したことの整理や、仕組み・技術の確認など、毎回の学習内容の復習や、次回内容についての予習は非常に重要です。1回の講義に関する下調べと事後確認に4時間程度をかけることを目安とする。なお、過去問題を使った演習などもその中に含む。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本講義は、情報処理に関する専門的知識を身に付け、経済にまつわる情報を分析し活用できることに貢献する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考
